



スポーツバイクニュース

～中級レベルのメカニック向け実践的作業事例～

平成29(2017)年11月30日 Vol. 19

隔月発行

今泉紀夫のMTB診断術—チューブレス・レディタイヤとシーラント剤

このMTB診断術は、自転車販売店でのMTBの修理・調整作業を紹介しています。ワークショップモンキーの今泉紀夫さんが、自身の経験に基づいた実際の事例から作成したモデルケースです。自転車販売店の中級レベルのメカニックを対象にしているため、基本的な名称、説明等は省略しています。作業は必ずメーカーマニュアルに従って行ってください。

持ち込まれたMTBの状況

耐久系のサイクリングイベントに参加するために、お客様がチューブレス・レディタイヤをチューブレス化しました。チューブレス化した当初は、毎週のようにMTBに乗っていましたが、冬になるにつれMTBに乗る頻度が低くなっていきました。ある日、しばらく乗っていなかったMTBに乗ろうとしたところ、タイヤの空気が抜けていて、フロアポンプで空気を入れても、次の日には空気が抜けているスローパンクの状態でした。

お客様が行った作業

メーカーのMTBを購入した際には、TCS(Tubeless Compatible System)とタイヤのサイドに表示されたチューブレス・レディタイヤが装着されていました。お客様はご自分でタイヤからチューブを抜き取り、メーカー指定の専用品であるリムテープやバルブステムを取り付け、バルブコアを取り外した後、バルブステムから専用のシーラント剤を注入しチューブレス化しました。

シーラント剤とは

各メーカーがシーラント剤を発売していますが、通常シーラント剤は液状で、メーカー指定の専用品を使用しなければなりません。チューブの代わりにシーラント剤を使用することによりチューブレス化でき軽量化につながります。大きな引っ掻き傷などには弱いのですが、先の尖った細い木の枝が刺さり小さな穴が開いた場合などは、空気の漏れを抑えることができるので耐パンク性がアップします。リムハイトを低くすることで、太いタイヤの性能をさらに引き出すことができ、タイヤのグリップ性能も向上する、と説明しているメーカーもあります。

作業方針についての説明

お客様がチューブレス・レディタイヤをチューブレス化したこと、現在はMTBに乗る頻度が低くなってきたことから、スローパンクした主な原因を2つ推測します。まず、タイヤ装着時にタイヤのビードの部分でリムテープを押したことで、リムテープをめくり上げていないか、確認をしなければなりません。次に、MTBに乗る頻度が少なくなってきた状況なので、乾燥したシーラント剤がタイヤの内面に固着していないか、というチェックも必要です。

その他に、リムのジョイント部分から空気が漏れていないか、異物がタイヤに刺さっていないかなどの確認も必要です。

いずれにしても、タイヤを外した後、リムとタイヤの内面を含めた全体の状態を確認し、パンクの原因を取り除かなければなりません。

タイヤを外してみる

タイヤを外したところ、予想どおりリムテープがめくり上がっていました。そして、シーラント剤が乾燥しタイヤの内面に固着していました。

リムとタイヤ全体の点検を行ったところ異常はありませんでした。

作業方針を決定する

お客様のMTBの利用状況にもよりますが、このままチューブレスにするのか、あるいはチューブレスを諦めチューブを使用するのか、といった方針を決めなければなりません。春を迎えMTBの利用頻度が高くなるのであれば、チューブレスのままでも大丈夫です。この場合にはリムとタイヤ内面に付着しているシーラント剤をきれいなウエスなどで拭き取ります。現在のリムテープをきれいにはがし、新しい専用のリムテープに貼り直します。タイヤ内面に固着したシーラント剤は、傷がつかないように丁寧にヘラなどを使って取り除きます。タイヤ内面にパーツクリーナーをかけると、タイヤを劣化させる恐れがあるので使用してはいけません。これらの作業が終わったら、タイヤをリムにきちんと装着しバルブシステムからシーラント剤を注入します。

MTBの利用頻度が低いままならば、チューブを使用した方がよい場合もあります。この場合、シーラント剤を使用しないので、タイヤの維持管理が比較的簡単になります。作業としては、シーラント剤を除去した後通常のリムテープに貼り直し、新しいチューブを装着し現在のタイヤを取り付けます。

出先でパンクしたら

休日、チューブレス・レディタイヤをチューブレス化し、MTBで遊びに行ったところ、出先でパンクが起きてしまったとします。パンクした際の基本的な対応方法として、パンクを引き起こした原因を取り除き持参していたスペアチューブを装着することです。ところで、タイヤはレッドであれば補修できる場合もありますが、ビード付近やサイドの傷であると補修は困難になります。

最後に

お客様のご希望とMTBの利用状況を確認した上で、お客様の立場に立って最適なアドバイスをすることが大切だと思います。MTBに長く乗っていただくためにも、お客様と自転車販売店がよい関係を継続できるようにしたいと思っています。ご不明な点などはメーカーに必ず確認をした後、作業を行うようにしてください。



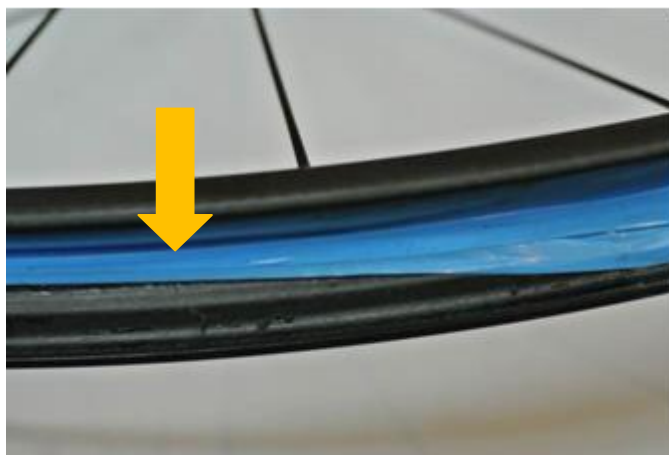
<監修>

ワークショップモンキー 今泉紀夫(いまいずみ のりお)

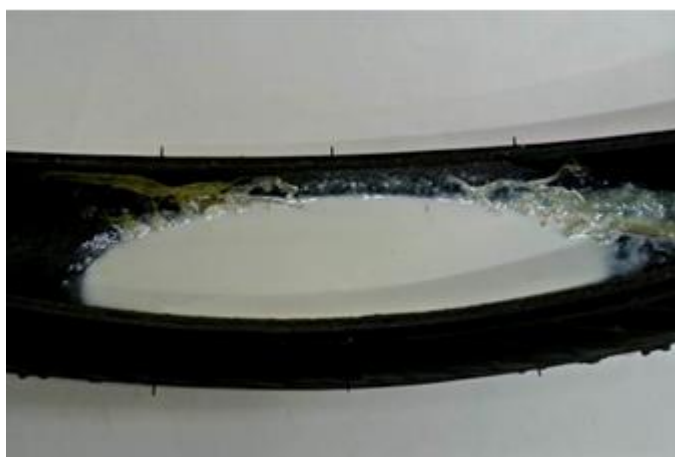
URL: <http://www.monkey-magic.com/> 住所: 東京都豊島区高田 3-13-6-102

MTBメンテナンス解説書の監修を手掛け、知識と技能は国内トップクラスにある。

オリジナルフレームの開発でも有名。SBM(スポーツバイクメカニック)認定講師



めくり上がったリムテープ



下に溜まって固着しはじめたシーラント剤